

令和6年5月 報道機関との定例懇談会 要旨

1 日 時 令和6年5月8日(水)13:00~13:30

2 会 場 市長応接室

3 参加者 報道機関9社、市側

4 懇談の概要

(1) 情報提供項目

人事異動者（報道機関）の紹介後、令和6年度の教育旅行の受入、雨水排水ポンプ場の運用開始説明会及び開設式、久慈あまちゃんマラソン大会などの各種イベントを市長からお知らせした。

(2) 記者との質疑応答

雨水排水ポンプ場の整備について

記 者 ポンプ場の整備は、2カ所で終了となるのか、それとも今後も整備の予定があるのかお聞きしたい。

市 長 計画としては15カ所の予定している（整備済は5カ所）。令和元年から新たに3カ所の整備を開始。昨年度に新井田ポンプ場を、今回は2カ所（十八日町と田高）の完成を迎えたもの。今後も財政状況等をみながら必要性の高いところから着手するなど、様子を見ていきたいと考えている。

副 市 長 平成28年の台風10号、令和元年の台風19号の被害を踏まえ、一気に3カ所の整備を進めた。県で整備した久慈川の支流・沢川の排水ポンプ場を合わせ、市街地で4基のポンプ場が稼働することとなる。浸水被害の軽減が図られると考えている。

記 者 残り7カ所の整備計画について、お聞きしたい。

市 長 久慈湊小学校の整備も踏まえ、財政状況等をみながら着手していきたいと考えている。

あまちゃん関連のイベントについて

記 者 昨年度はNHK連続テレビ小説「あまちゃん」の放映10周年で様々なイベントが行われた。久慈あまちゃんマラソンをはじめ、今年度のあまちゃん関連のイベントについて、決まっていることがあればお聞きしたい。

市 長 昨年はたくさんの観光客にお越しいただいた。今年度も、5月13日に開催する北三陸「あまちゃん」観光推進協議会の総会の中で計画を立てて事業展開していきたい。

久慈市日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震津波対策検討委員会について

記 者 5月24日(金)開催の委員会について、どのような内容を議論するのか、何らかの決定事項はあるのか、それぞれお聞きしたい。

市 避難路や避難計画の整備方針を議論したいと考えている。庁内各課に照会した必要な避難路や地域の自主防災組織から意見をお聞きして、整備方針を固めていきたい。

記 者 避難路は、今年度中に全体案として固めるものか？

市 計画は今年度中に策定したいと考えている。設定した避難路の状況によって、道

幅の拡張や未舗装の整備も必要なため、整備にあたっては、津波避難対策緊急事業計画に盛り込んで複数年で整備したいと考えている。

週休3日制の試行について

記者 今月13日から週休3日制を施行予定と3月懇談会と伺っていた。対象となる職場や試行に参加する職員数など詳細についてお聞きしたい。

市 施行期間は、5月13日から8月31日まで。全部で51課ある中で、今回は、総務課、地域づくり推進課、市民課、保健推進課、商工観光課、企業立地課、建設企画課、ふるさと振興課、経営企画課、教育総務課の10課を選定した。10課に所属する職員は133名。全職員628名の21.2%を対象に施行する。市民サービスなどに影響がないよう施行（選定）し、実施結果を踏まえて、9月以降にも再実施したいと考えている。

人口減少対策について

記者 GW前に民間のシンクタンクから消滅可能性自治体の発表が出た。女性の減少率を基にした推計値で、対応策などは発表されていないが、自治体のトップとして、内容をどのように受け止めているか。他の自治体でもお聞きしており、市長のご意見を伺いたい。

市長 厳しい言葉ではあるが、このままいけば人口がどんどん減少していくため、他の自治体も含め地方全体で頑張らなければいけない、との叱咤激励だと思っている。ただ、消えてしまうからもうダメということではなく、このままの状況が続けばという前提条件があるので、これを打破するためにも、新しい産業の創出により若者が住みたいまちを作っていかなければならない。当市では、洋上風力発電を柱にししながら、雇用の場の拡大、新しい産業分野の誘致、大型の工場誘致に取り組んでいる。地元の企業や漁業関係者の皆さんと話し合いを重ねながら、新産業の創出と漁業が成り立つ環境づくりに向けて努力しているところである。

一方で、1都3県への人口集中が止まない中、東京の高齢化も進み、高齢者が入る施設が確保できないと言われている。国の行政機関は、霞が関に集中したままになっており、地方へ分散するなど、国も本腰を入れて対策に取り組んでもらいたい。国に対しても働きかけをしていかななくてはいけないと思っている。